

2016年6月17日

報道関係者各位

インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ

**「インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ」一般社団法人化
～2016年度は12分類21テーマのリファレンスモデル作成を計画、
さらに新規取り組み「IVIプラットフォーム」「地方ネットワーク」など活動内容を拡大～**

インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ（理事長 西岡靖之、以下IVI）は、2016年6月17日に都内にて公開シンポジウムを開催しました。団体の設立より1年を経て「一般社団法人インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ」となり、日本版インダストリー4.0への取り組み成果を報告するとともに、リファレンスモデル“ゆるやかな標準”作成へ昨年度以上に力を入れるとともに、新規取り組みを開始すると発表しました。

2015年6月に設立されたIVIは、正会員（製造業）94社（大企業63社、中小企業31社）、サポート会員（IT系・コンサルティングなど非製造業）42社、学会会員16人、賛助会員10団体（2016年5月31日現在）で登録総会員数422人の組織へと成長しました。

※会員リストは随時ホームページ上で公開しています。<https://iv-i.org/memberlist.html>

IVI活動の成果として、ゆるやかな標準というコンセプトのもと昨年2015年度は20のワーキンググループ（以下WG）が、リファレンスモデルの作成を行いました。その活動報告は、この3月に開催された公開シンポジウムで報告され、さらに4月にドイツのハノーバーで開催されたハノーバー・メッセ2016で西岡理事長より世界に向けて、「日本版インダストリー4.0の取り組み」として紹介されました。また、ドイツ工学アカデミー（acatech <http://www.acatech.de/>）のヘニング・カガーマン会長と会見し、日本とドイツのインダストリー4.0の研究開発で連携を進めていくことに合意しました。

「IVIは、一般社団法人となり組織体制がこれまで以上に強化拡大され“ゆるやかな標準”の拡充や地方展開を行うとともに、この成果をドイツやアメリカ、アジアなど海外へ積極的に発信して連携を進めていきたい」と、理事長の西岡靖之法政大学教授は語っています。

IVIでは、これまでの活動に加えて新規取り組みとして「IVIプラットフォーム事業」、「地方ネットワーク事業」（4都市：静岡、神戸、富山および選定中1都市）の取り組みを発表しました。IVI活動の中心である「ゆるやかな標準」リファレンスモデルの作成は、今年度は昨年以上に幅広い領域かつ深いテーマの活動が計画されています。このリファレンスモデルの内容は、10月開催予定の公開

シンポジウムで中間報告される予定です。

<2016年度のワーキンググループ一覧> ※WGは暫定で変更される可能性があります。

1. 生産技術：

- －2A01 工程情報と製造ノウハウのデジタル化（ファシリテータ：ブラザー工業）
- －2A02 設計変更時の生産準備情報の連携（ファシリテータ：富士通）

2. ロボット活用：

- －2B01CPSによるロボットプログラム試算の有効活用（ファシリテータ：安川電機）

3. 工程管理：

- －2C01 人・物のリアルタイムなデータ収集によるタイリーな生産計画変更
（ファシリテータ：CKD）
- －2C02 工場内の超みえる化による最適管理の実現（ファシリテータ：ヤマザキマザック）

4. 現場管理：

- －2D01 先端IoTを活用した変種変量生産における作業支援（ファシリテータ：コニカミノルタ）

5. 品質管理：

- －2E02 品質データのトレーサビリティ（ファシリテータ：いすゞ自動車、矢崎部品）

6. 在庫管理：

- －2F02 標準I/FによるサプライチェーンのCPS実現（ファシリテータ：東芝、日本電気）

7. 調達管理：

- －2G01 工程情報の共有と企業間連携（ファシリテータ：小島プレス工業）
- －2G02 複数工場間での工程進捗と納期管理（ファシリテータ：富士通）
- －2G03 スマートコントラクト活用による受発注・決済の合理化（ファシリテータ：DTS）

8. 中小企業：

- －2H01 中小企業の水平連携と進捗の見える化（ファシリテータ：今野製作所、由紀精密）
- －2H02 中小企業を中心とするつながる町工場
（ファシリテータ：エー・アイ・エス、西川精機製作所）

9. 技能管理：

- －2J01 人と設備が共に成長する工場ものづくり改革（トヨタ自動車）

10. 予知保全：

- －2K01 プレス機とパネル搬送装置の予知保全（ファシリテータ：オムロン）
- －2K02 エコな予知保全データ活用ビジネス（ファシリテータ：東芝）
- －2K03 故障予知と設備ライフサイクルマネジメント（ファシリテータ：ダイフク、トヨタ車体）

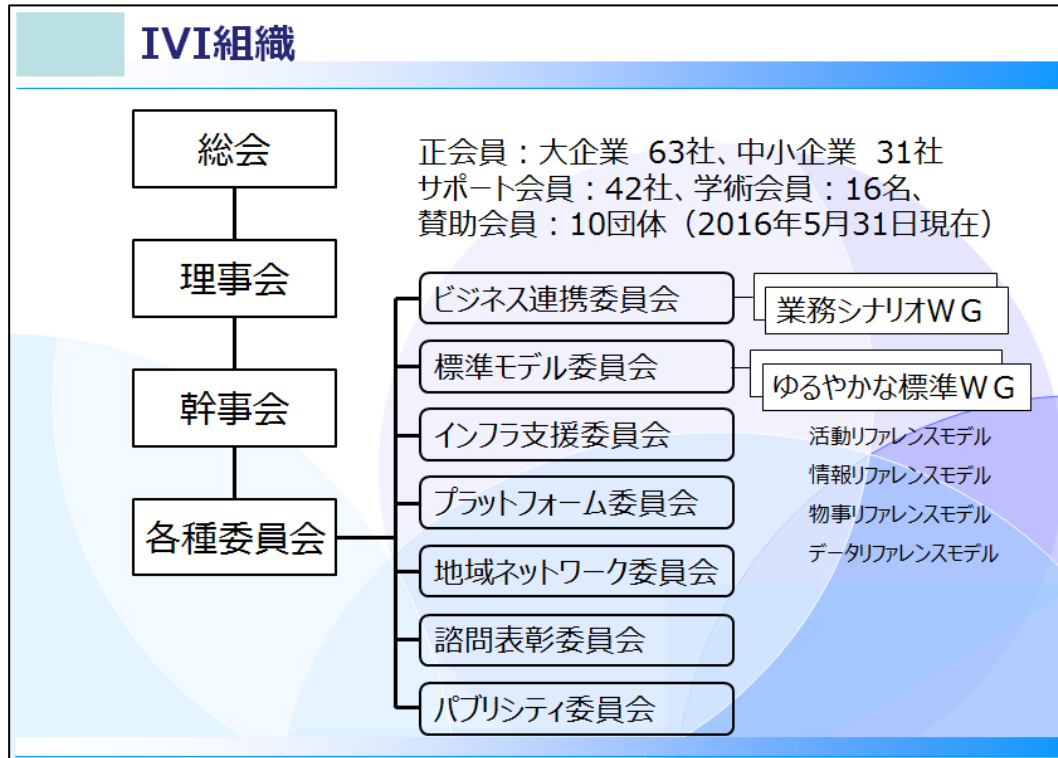
11. 設備管理：

- －2L01 設備稼働データによる保守／保全の効率化（ファシリテータ：東芝、電通国際情報サービス）
- －2L02 設備と人の見える化による生産性の向上（ファシリテータ：神戸製鋼所）
- －2L03 企業間の生産情報共有による生産リソースの相互融通（ファシリテータ：日立製作所）

12. 保守サービス：

- －2M01 自社製品販売後のサービス付加価値向上（ファシリテータ：日本電気）

<IVI 新組織体制>



■ゆるやかな標準とは

異なる装置と装置がダイレクトに接続する場合は、厳格なルールや規約にもとづいた標準が必要となります。一方で、生産現場や、改善活動をとまなう人が中心のしくみでは、厳格で細かい標準は、かえって個々の特性や人の創意工夫を阻害する場合があります。ゆるやかな標準では、最低限の共通化すべき部分のみが規定され、個別の変更や部分的な改良を許容します。

■リファレンス（参照）モデルとは

リファレンスモデルとは、ゆるやかな標準として、対象となる工場の設備や、作業や、それらの関係をモデルとして表現したものです。個々の製品やシステムは、リファレンスモデルの内容と厳密に一致する必要はありません。リファレンスモデルは、個別の企業のケースに対応したつながるしくみを構築する際の参考にしたたり、比較したりする際に利用します。

■インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ（IVI）とは

IoT時代におけるものづくりとITの融合によって可能となる“つながる”ものづくりを、“ゆるやかな標準”というコンセプトをもとに実現することを目的として2015年6月18日に設立された製造業を中心としたフォーラムです。IHI、オムロン、川崎重工業、キヤノン、神戸製鋼所、小島プレス工業、今野製作所、ダイフク、東芝、トヨタ自動車、豊田中央研究所、ニコン、日本電気、パナソニック、日立製作所、富士通、マツダ、三菱電機、安川電機など、国内外で150社以上が参加しています。

<本件に関するお問い合わせ先>

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町 14-1

モノづくり日本会議内

FAX : 03-5644-7209

電子メール : office@iv-i.org

インダストリアル・バリューチェーン・イニシアチブ 事務局 (担当 : 鎌田正雄)

ホームページ : <http://iv-i.org/>

<報道機関からのお問い合わせ先>

IVI 事務局 担当 : 鎌田正雄

電子メール : office@iv-i.org

以上